

この家は外壁はレンガ張、屋根は銅板、冷暖房は一階は温水床暖房とヒートポンプ・ファンコイルユニット方式の冷暖房を組み合わせであり、二階はヒートポンプ・ファンコイルユニット方式の冷暖房としてあります。建設費がかなり高額な建物でした。

インテリアにおいても各所に美術的志向が凝らされています。

仕上げは玄関の床は台湾産蛇紋岩張、廊下をはじめ1階の各室は緞通(18mm厚)の織物、特にリビングの床にはオリジナルの紅葉を織り込んだ緞通(もので)、ダイニングの床はやはり鉄線の花をあしらった緞通が敷き込まれています。リビングルームは前回のレポートに写真を掲載しましたが、広々としたスペースにオリジナルの鑄鉄製暖炉を配置し、南側の窓はドイツ製の大型嵌め殺しのサッシュで片側は引き戸です。その内側に引き込みの障子が建て込んであります。

このサッシュの枠や框は見えないように木枠でカバーしてあります。それにより窓は枠が見えなくなり、大きなガラスの嵌め殺し窓になって景色がスッキリと際立って見えます。

紅葉模様は施主の好みです。日本の紅葉は美しい赤ですが、カナダで見た楓はオレンジ色で日本のような赤い紅葉は見なかったとのこと、このモチーフに決まりました。床続きのダイニングルームは奥村先生の発案で、リビングは秋なので夏景色にし、鉄線ではどうかと言われこれに決定しました。

緞通のメーカーはオリエンタルカーペットに依頼し、その社で紅葉と鉄線の図柄がデザインされました。紅葉の配置は施主と奥村先生の意向で、暖炉前に赤い紅葉を中心に散らし、まわりには紅葉の葉やオレンジ・黄緑の葉がレイアウトされています。鉄線は蔓を配しテーブル回りに紫色の花を散らしています。

リビングと続きの和室の襖は越前和紙に日本画家の富岡惣一郎氏による小波が広がるシルクスクリーンの絵が貼り込まれました。

キッチンなどの水回り以外の照明器具は当方のオリジナルデザインです。

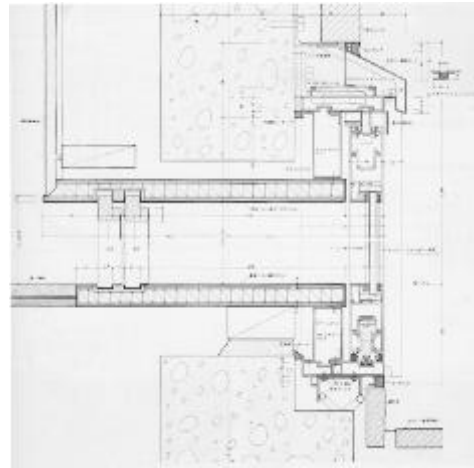
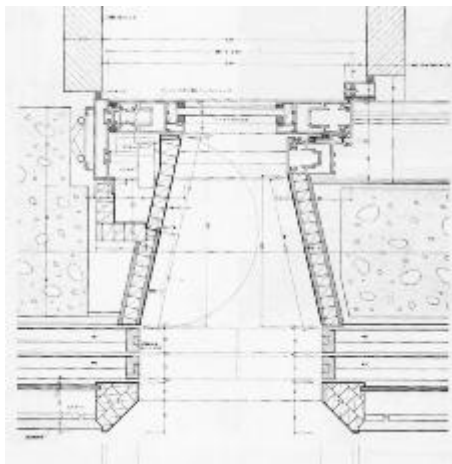




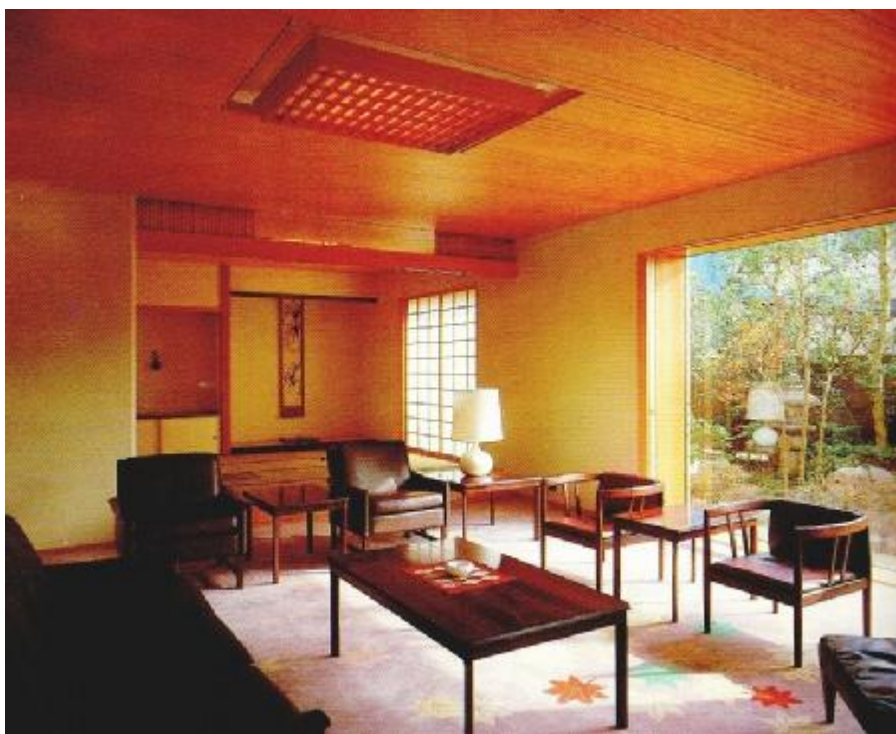
リビングルームの紅葉模様の絨通、奥に小波の襖



ダイニングルームの鉄線模様の絨通



アルミサッシの枠部分を木枠で隠すデテール



写真：一流住宅第15集 徳間書店、図面は住宅建築より